

お元気ですか

【第33号】

新棟完成!



昨年の8月に着工し、今年の6月に新棟を完成させ、8月末をもって増築・増床工事を無事完了することができました。患者様、ご家族そして近隣の住民の皆様には大変なご不自由・ご迷惑をおかけいたしましたこと、改めてお詫び申し上げます。

さて今回の増築工事の趣旨といたしましては、「地域医療のさらなる充実と救急医療体制の強化を図る」といたしました。

まず、MRIの導入、酸素・吸引設備の大幅な増強、救急入り口と救急処置室を直結し、診察室も増やすなど診療機能の充実を図っています。

入院病棟においては、入院ベッド数を18床増やすとともに、8人部屋などを廃止し、ひとりあたりのスペースを広くとりました。廊下幅も広くし、デイルームを新設したことにより開放感ある明るい病棟をめざしました。医療相談室とともに患者様ご家族への説明スペースやご家族控え室などを設けプライバシーにも配慮しました。

透析センターも、ベッド数を4床増やし、水の供給システムを新たにし、安全性に努めています。

工事が終わったからといって、100点とは考えておりません。皆様のご意見を頂戴しながら、職員一同、少しでも質の高い病院づくりに邁進したいと考えております。

院長 仲田和正

新棟 病室



透析室



MRI室



泌尿器科



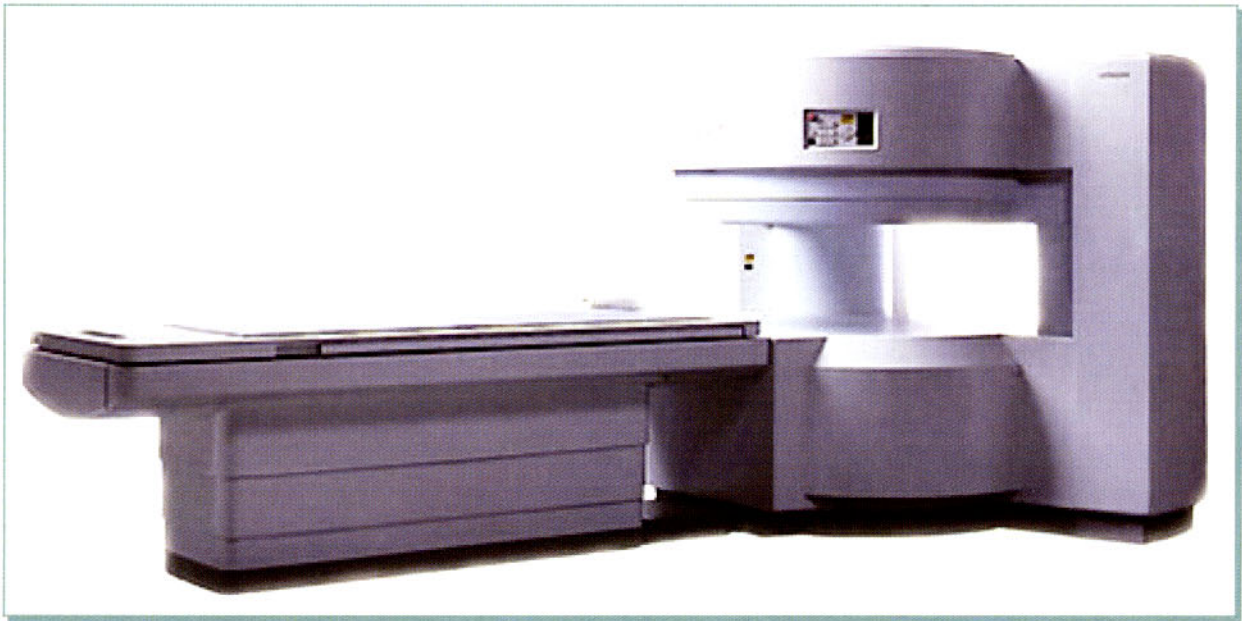
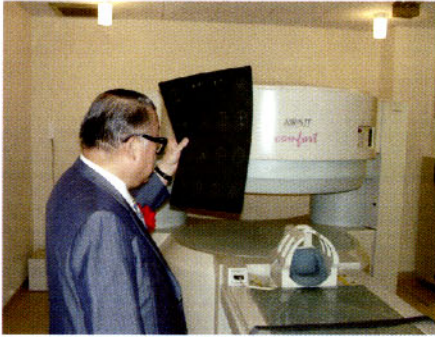
栄養科



リハビリ室



MRI 検査



この7月より当院に待望のMRIが導入されました。MRIとは人体の中から信号を出させて、体内の断面像や血管像などを作る機械で磁場を利用しています。

MRIにより今までのX線CTとは違った情報が得られ、病気の診断をつける上で大変有用です。また放射線被ばくの心配もありません。脳卒中、とくに脳梗塞の早期診断にはX線CTより遥かに早く正確に診断できますので、当院においても、その有用性が大いに発揮できると考えられます。また動脈なども造影剤を投与しなくても描出できますので、脳動脈瘤などの検出にも有用です。ただし脳出血などはX線CTの方が早く正確に診断できますので、脳卒中の診断にはX線CTとMRIを併用して診断に用いるべきです。

また脊椎の診断にも有用で、椎間板ヘルニアの診断には、今や欠かせない検査法となっています。更にMRIは腹部の画像診断にも用いる事ができます。

なお当院のMRIは開放型(オープンタイプ)ですので、検査中に閉じ込められている感じがなく、閉所恐怖症の方でも安心して検査を受けられます。但し、心臓ペースメーカーや磁性体の金属クリップなどを体内に着けている方は検査できません。検査前に職員がその事について詳しく質問しますが、心配の方は遠慮なく質問して下さい。

西伊豆病院 内科医師

土肥クリニック 院長

登木口 進

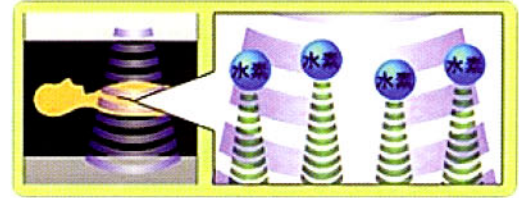
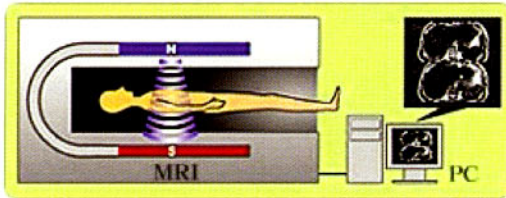
MRI ってなあに？

Magnetic **R**esonance **I**maging >>>>> **磁気共鳴画像**
マグネティック レゾナンス イメージング

【MRIのしくみ】

MRIは、その名前の通り、人体に磁気を当てます。
大きな磁石の中に入る様な感じです。

磁気が当たると、体内にある水素原子核が磁気に共鳴して微弱な電波を発生します。
その電波を受信して画像を作成します。



【MRIの特徴】

- * 磁気を使用して画像を得ます。X線CTの様に放射線を使用していないので被ばくがありません。
- * 強力な磁石を使用していますので、金属品を付けたまま検査を受けてしまうと、磁石に引きつけられたり時計・補聴器などは壊れてしまいます。磁気カード(キャッシュカード)なども壊れてしまいます。
- * MRIはどこの部位でも撮影する事が可能で、断層画像だけではなく、造影剤を使わないで血管だけを画像化する事も可能です。
- * MRIにはオープンタイプとトンネルタイプがあり、当院のMRIはオープンタイプなので、トンネルタイプに比べ閉塞感が少なく、小さなお子さんの検査の時などは、お母さんが寄り添う事ができます。
- * 検査時間は、X線CTに比べ長く30分から1時間かかります。検査中に動いてしまうと、画像に影響が出る場合がありますので、動かないようにするのが重要です。

【MRI検査を受ける】

医師との問診

診察よりMRI検査が有用と医師が判断した場合に予約をします。(緊急の場合を除く)その際、問診と注意事項と検査の説明があります。
この時に、検査の日付と検査時間が書かれたMRI検査予約票をお渡しします。
※ 検査には特に準備はありません。ただし、検査内容によっては前日より食事制限がある場合があります。

MRI検査

検査予約票を受付に出しMRI室の前でお待ち下さい。
検査時間になりましたら、技師より注意事項の説明を聞き、検査着に着替えて頂きます。
撮影部位に専用の機具を装着します。検査が始まると「トントン」といった音がします。
検査中は技師とマイクで話しができますので、気分が悪くなった場合などは遠慮なくお申し出下さい。

医師から説明

診察室にて、撮影された画像を元に医師から説明があります。
※ 医師からの説明は、検査当日の場合と、後日の場合がありますので、検査の予約時に確認しておくとい良いでしょう。

MRI について、ご質問などありましたら、気軽にお聞き下さい。

やっきよくかわらばん

メタボリックシンドロームって何？の巻

メタボリックシンドロームという言葉聞いた事がありますか？最近、色々なところで取り上げられるようになりました。直訳すると「**代謝異常症候群**」。一体どんな病気なのでしょう？

肥満、高血圧、高脂血症、高血糖…。これらの危険因子が重なった状態をメタボリックシンドロームといいます。一つ一つは、これまでいわゆる「生活習慣病」として捉えられてきました。問題なのはこれらが一人に重積して起こること。そしてメタボリックシンドロームの状態になると動脈硬化を促進し、致命的な心筋梗塞や脳梗塞を引き起こしやすいことがわかってきました。



あなたはメタボリックシンドローム???

- ウエスト周りの大きさが男性：85cm以上、女性：90cm以上
- 最高血圧が130mmHg、最低血圧が85mmHgより高い
- 中性脂肪（TG）の値が150mg/dL以上
- 空腹時血糖値が110mg/dL以上
- HDLコレステロール値が40mg/dL以下

3つ以上あてはまる人はメタボリックシンドロームといってよいでしょう。

参考：日経BPホームページ

メタボリックシンドローム
を予防・改善するには？

食事と運動が大事です。

適正体重を維持する	バランスのとれた食事	規則正しい食事	脂肪を取り過ぎない	塩辛い味付けを避ける	糖分の多い食品を食べ過ぎない	ウォーキングなどの適度な運動	十分な睡眠と休養	禁煙	適度な飲酒
-----------	------------	---------	-----------	------------	----------------	----------------	----------	----	-------

院内エキシビジョン



* 保育室の充実 *

増床を機に保育室も広くキレイになりました。広いプレイルームと和室のプレイルーム、さらに和室のベビールームができました。1歳未満の赤ちゃんから小学生までの子供達が、びのびと過ごしています。

保育室



和室プレイルーム
午後は、お昼寝ルームとして



ママ～
おっばい～
早く来て～



子供専用トイレ

子供の笑顔が一番の励みです！
院内に保育室があり、安心して仕事に集中できます。



クローズアップ 職員

病院内には **病棟クラーク** という職種があります。

当院では各病棟に1人づついて、看護師と医師・病棟と医事課・病棟と各検査科・病棟と栄養科・病棟と外来などの架け橋となり、院内を動きまわります。普段は病棟のカウンターにいて、電話の取次ぎや来院された方の対応も致しますので、かなり重要な位置にあり、幅広い仕事を担当しているのです。

2階 病棟クラーク



井山 仁実

去年の12月から働き始めて8ヶ月が経ちました。クラーク業務は細かい仕事がたくさんあり、患者様・看護師さん・他部署の方々との関わりも多くて、大変だと感じる事もありますが、やりがいのある仕事だと思っています。

出身は松崎生まれ松崎育ちです。趣味はお買い物ですが、今は仕事で精一杯です。この仕事に就く前は小児科クリニックで医療事務をしていました。



3階 病棟クラーク



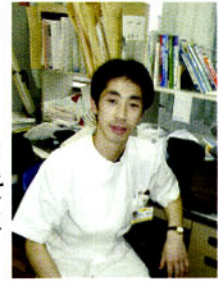
森 美奈子

今年の4月1日よりお世話になってます。まだまだ不慣れで分からない事だらけですが、周りのみなさんに支えられてがんばっています。クラークの仕事は、ナースにとって働きやすい環境をつくる為にサポートしていきます。伝票まわりから物品の管理まで、病院内をまわります。いろいろな部署に顔を出すので、他部署との関わりもあります。普段は3階ナースステーションにおりますので、ご用の方は気軽に声をかけて下さい。

出身は西伊豆町田子です。趣味はバレーボール！週に一度ですが、いい汗かいています。

家庭における健康法 — 漢方のこと

内科医 柳町知宏



暑かった夏も過ぎ、季節は秋になってきました。暑いときは冷たい飲み物や食べ物がおいしいですね。子供さんがジュースやアイスなど多食し、おなかを壊すことはなかったでしょうか。この夏もそんな方々の何人かと病院でお目にかかりました。

最近あまり聞きませんが、私が子供の頃「冷たいものを食べ過ぎないように。」とよく言われたものです。冷たいもの、生ものが胃腸に負担をかけることが知られていたからです。また刺身などの生ものを食べるときは、わさびやしょうが、ねぎや紫蘇などの薬味と食べるように言われました。それらがおなかを温め、生ものによる胃腸の負担を軽減させてくれることを経験的に知っていたからです。昔からの知恵の中には、簡単で役に立つ情報がしっかりあるものです。

毎日の新聞、雑誌には健康のことや病気の記事があふれています。自分や家族の健康や病気に関して、現代は情報過多の時代ですね。ただ多すぎる情報からは「確かな情報」を選ぶ必要があります。さまざまな健康法・治療法が出ては消えるなか、効果が期待できる確かさの一つの基準として、「昔からあり今も残っている」ということがあるでしょう。有効なものは残り、無効なものはすたれることは予想できます。もちろん例外もありますが。

生活習慣病といわれるようになった慢性疾患である「高血圧、糖尿病、高脂血症」などは日々の生活によって作られ、改善・悪化していくものです。薬も大事ですが、それ以上に日々の生活・食事・運動・睡眠が重要です。何かあったらすぐ病院にかかる、というのも一つのスタイルですが、自分でできることは自分でするというのも大切なことだと思います。

健康法・治療法の一つの手段として「漢方」はあります。漢方と聞くとなんとなくふるめかしい、あやしい感じがするかもしれません。古くからあるのは確かですが、今も進化している古くて新しい医療だと私は思います。また保険医療では使えないと思っている方もいますが、粉のエキス剤は保険医療で使用できるものが多いです。



漢方とは特に東アジアの先人たちが経験と知恵をまとめ、洗練させていく中で出来上がっていった養生・治療法です。

確かな効果があると思います。そんな漢方の知恵を、家族の健康に一番気を使うお母さん方に関心を持っていただけたら嬉しく思います。

《 皮膚科受診の方へ 》



平成17年9月12日(月)より皮膚科診療が1日診療となりました。

〔午前〕
受付時間 8時15分～11時30分
診療開始 10時から

〔午後〕
受付時間 14時～16時30分
診療開始 14時30分から

『 お元気ですか 第33号 』

平成17年9月 発行

発行 医療法人社団健育会 西伊豆病院
〒410-3514 静岡県賀茂郡西伊豆町仁科138-2 TEL 0558-52-2366

ホームページ <http://www.nishiizu.gr.jp/index2.html>